

①医療・医療技術・ 事務職編

びわこ学園は病院機能と福祉機能を併せ持った法人であり、多様な職種の職員が利用者支援に携わっています。今年もそれぞれにびわこ学園で働く中で感じていることを綴っていただきました。

びわこ学園に就職してから、10年が経ちました。

新人としてびわこ学園に入職したときには、前の職場に比べて、呼吸器や胃瘻・腸瘻など医療処置をされている利用者さんが多く、理学療法士として何が出来るか悩んでいました。

そのような手探り状態の中、日々利用者さんに関わらせていただくことで、表情などの言葉以外の表現によって、体調や気持ちを伝えてくださることに気づき、それに合わせて理学療法は何をしただけかを考える学びともなってきました。

今まで関わってきた、たくさんの利用者さんから教えていただいたことを糧としながら、これからも利用者さんの安定・安心に努めていきたいと考えています。



栗田 佳奈
理学療法士・11年目
びわこ学園医療福祉センター草津

びわこ学園に来た当初は、これまで経験してきた医療現場との違いに戸惑うこともありましたが、障害のある方々とじっくり関わる中で、この医療の奥深さとやりがいに気づかされました。

表情やわずかな反応を通して、こちらの思いが伝わったと感じる瞬間、また利用者さんの気持ちが伝わったと感じる瞬間に、互いに通じ合えた喜びを実感するようになりました。

この数年で感じてきたのは、医学的な知識や技術以上に、人との関係性こそがケアの土台になるということです。

これからも利用者さんやご家族と丁寧に向き合いながら、チームの一員として、安心できる医療の提供に努めていきたいと思えます。

伊藤 隆洋
医師・4年目

びわこ学園医療福祉センター野洲



2020年、コロナ禍真っ只中に就職しました。事務職として働くのは、びわこ学園が初めてだったため右も左もわからない状態で、先輩方にご指導いただきながら目の前の業務をこなすことに精一杯でした。

年数が経つにつれ、利用者の方とのかわりも多くなり、「自分の担当業務が利用者みなさんの生活にどのようにつながっているのか」と考えることが増えました。業務に行き詰まったときにも、そのつながりを考えると前進する力が出たり、自分のやるべきことが見えてきたりします。

まだまだミスも多いですが、周りの方々に支えていただきながら働けている環境に感謝しています。これからも、みなさんのお役に立てるよう精進したいと思います。



堀田 乃梨
書記・4年目
びわこ学園医療福祉センター草津



森 真奈美
臨床検査技師長・11年目

びわこ学園医療福祉センター野洲

2015年にびわこ学園に入職させていただいて、早10年。振り返ると色々あったようで、あっという間だった気がします。

私は利用者さんの検査を担当しておりますが「検査」というものは必要なことではある一方で、利用者さんにとっては楽しくない、怖いことである事が多いです。そんな不安や緊張を抱えながらも頑張って受けようとしてくださったり、少しずつできることが増えていったりする姿を見ると、こちらが逆に励まされより頑張らねばと感じます。それは10年前から変わりません。

少しでも安心して検査を受けて頂けるよう、気持ちに寄り添う姿勢を忘れずに業務に取り組んでいきたいと思えます。